

CASBEE神戸ver.3

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE神戸ver.3/CASBEE 建築（新築）2016年版（使用評価ソフト：CASBEE神戸ver.3/CASBEE-6D_NC_2016(v3.0)）

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	名谷駅美装化・リニューアル事業	階数	地上3F	
建設地	兵庫県神戸市須磨区中落合2丁目4	構造	S造	
用途地域	高度地区(第7種)宅地造成工事規制	平均居住人員	XX 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)	
建物用途	事務所、物販店、病院、等	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2023年6月 予定	評価の実施日	2022年6月1日	
敷地面積	976 m ²	作成者	佐藤優文	
建築面積	781 m ²	確認日	2022年6月29日	
延床面積	2,268 m ²	確認者	長町伊仙	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 86%
③上記+②以外の 86%
④上記+ 86%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安を示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 CASBEE神戸 の重要項目		
バリアフリー計画 Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 3.0	建築物の耐震性等 Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 3.8 Q-2/2.4 信頼性 3.6	まちなみ・景観への配慮 Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 4.0
配慮の概要 耐震性能の構造体をⅡ類とし、大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく、建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られている。設備はキュービクルを屋上に設置し、地下空間を避け非常用発電機や無停電源設備を備え、非常時に配慮している。節水型の機器を選定し、メタル・光ケーブル等の通信手段の多様化を図っている。	配慮の概要 周辺の建物の外壁仕上(タイル調・色彩)を合わせて、周辺のまちなみに調和するように配慮した。屋上の設備機器はアルミルーバーで目隠し、周辺への見栄えに配慮した。ゆずりは橋との接続部分も建物調和するように全体に美装化し良好な景観となるように計画した。	配慮の概要 周辺の建物の外壁仕上(タイル調・色彩)を合わせて、周辺のまちなみに調和するように配慮した。屋上の設備機器はアルミルーバーで目隠し、周辺への見栄えに配慮した。ゆずりは橋との接続部分も建物調和するように全体に美装化し良好な景観となるように計画した。
その他の配慮事項		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
名谷駅美化・リニューアル事業 駅ビル北館

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.7
Q1 室内環境							0.40			4.0
1 音環境						4.2	0.15	-	-	4.2
1.1 室内騒音レベル		外壁開口部にLow-E複層ガラスサッシを採用				4.0	0.40	-	-	
1.2 遮音						5.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		外壁サッシの遮音性能はT-2を採用				5.0	1.00	-	-	
2 界壁遮音性能						-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-	-	
1.3 吸音						3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境						3.6	0.35	-	-	3.6
2.1 室温制御						4.2	0.50	-	-	
1 室温		空冷ヒートポンプエアコンを採用し、室温の制御が可能。				5.0	0.45	-	-	
2 外皮性能						3.0	0.20	-	-	
3 ゾーン別制御性		共用部での複数のゾーニング分けし、冷房・暖房の選択が可能。				4.0	0.35	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						3.9	0.25	3.0	1.00	3.9
3.1 屋光利用						3.2	0.44	-	-	
1 屋光率		共用部の屋光率を2.0%以上を確保				4.0	0.26	-	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 屋光利用設備						3.0	0.74	-	-	
3.2 グレア対策						4.0	0.13	-	-	
1 屋光制御		ブラインドまたはロールスクリーンに庇を加えて制御。				4.0	1.00	-	-	
3.3 照度						3.0	0.07	-	-	
3.4 照明制御		細かい照明制御ができ、トイレは人感センサーによる照明制御を採用。				5.0	0.36	3.0	1.00	
4 空気環境						4.5	0.25	-	-	4.5
4.1 発生源対策						5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の全面的に使用。				5.0	1.00	-	-	
4.2 換気						3.8	0.30	-	-	
1 換気量		通常の必要換気量から1.4倍程度以上ものを設置。				5.0	0.44	-	-	
2 自然換気性能						3.0	0.12	-	-	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.44	-	-	
4.3 運用管理						4.5	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		手動による計測をするシステムとし、管理マニュアルも整備。				4.0	0.45	-	-	
2 喫煙の制御		建物全体を禁煙にしている。				5.0	0.55	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.8
1 機能性						3.8	0.40	1.0	1.00	3.8
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						3.0	0.12	-	-	
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.12	-	-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.77	-	-	
1.2 心理性・快適性						4.3	0.30	1.0	1.00	
1 広さ感・景観						3.0	0.31	-	-	
2 リフレッシュスペース		屋上を開放しており、休憩スペースとして利用できる。				5.0	0.28	-	-	
3 内装計画		建物のコンセプトや取組み内容、イメージパースを作成。				5.0	0.40	1.0	1.00	
1.3 維持管理						4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		清掃しやすい内装材料の使用や、防鳥ワイヤーを設置で糞害対策。				5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		WC設置各階に掃除用流しを設置。				4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.9	0.30	-	-	3.9
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.8	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建物の耐震安全性能を目標を構造体Ⅱ類で計画。				4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						4.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		品確法の劣化対策等級3相当の鉄骨防錆措置を採用。				5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		主にアルミサッシを使用。				5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床は磁器質タイル、塩ビタイル壁はメラミン化粧板を使用。				5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管・排水管にVP管を使用。				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		電気・ガスの分散化、地震時に備え吊り配管などの仕様。				4.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		キュービクルを屋上に配置。				4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		地下に通信設備の設置を避け、災害時の有線電話を設置。				4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.7	0.30	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	各階の階高さを4.5m以上を確保し、更新性に配慮。	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率を0.275として、空間プランニングの自由度がある。	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	階高が高く納まりに余裕があり、修繕・更新が容易に行える。	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	階高が高く納まりに余裕があり、構造・仕上部材を痛めず更新。	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	ポンプは1F外部から更新可能。	4.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			1.0	0.20	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用			4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.85	2.7	0.50	-	2.7
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	エネルギー消費量を継続的に把握し、消費特性の傾向把握・分析を	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
節水コマ、節水型便器、自動水栓、人感センサー付き小便器の洗浄。							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.13	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.25	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			照明器具、エコケーブル、排水通気用硬質ポリ塩化ビニル管	5.0	0.25	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.13	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			躯体+軽鉄+仕上材、OAフロア、配管・配線は躯体や仕上と分離。	5.0	0.25	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			5.0	0.30	-	-	
接着剤、シーリング材、塗料、錆止塗装で有害物質を含まない。							
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
2.1 大気汚染防止			4.0	0.25	-	-	
湯沸器を低Nox型小規模燃焼機器の使用。							
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		-	-	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		3.0	1.00	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策や広告物照明の扱いに配慮	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	外壁部分を軒を出し反射光を出来るだけ出さない対策をしている。	4.0	0.30	-	-	